

## 地域の経済動向（令和4年7～9月期）

### 《道南（渡島・檜山）地域》

#### 1 経済動向に係る企業等の声（7～9月期）

##### 【建設業】

- ・原油価格高騰の影響をもろに受けている。原油価格が安定することを希望。（土木工事業）
- ・高規格道路工事のおかげで、今期（決算期8月）までの3年間は増収。更に今期は、大雪の影響で、除雪含む維持工事が、約2倍の売上。ただし、高規格道路の工事が完了したため、来期は売上6割減の予測。（建設業）
- ・増収ではあったが、今期は大幅な経費増。電気代は1.5～1.6倍、燃料代は1.7～1.8倍。原油高に伴いアスファルト価格は1t当たり7.5万円から13万円に高騰。（建設業）

##### 【製造業】

- ・原材料等の値上がりを受け、売上は減少傾向。今後、商品価格を1割程度値上げする予定。（パン・菓子製造業）
- ・ウッドショックにより木材価格が高騰したが、販売価格に転嫁できた。梱包材や集成材ともに受注増加。（木材製造業）
- ・売上は減少傾向。和菓子・洋菓子とも販売しているが、夏場は洋菓子の売れ行きが落ちる傾向。原材料等の値上がりにより、来月以降商品価格を1割程度値上げする。（製造業）

##### 【卸売・小売業】

- ・原材料価格引上げが半期に2度の頻度で行われており、商品価格改定が追いつかず、さらに原油高・円安の影響をうけて資材等の値上げが著しい中、価格転嫁のタイミングが難しい。最低賃金引上げもあり価格見直しを検討。（菓子・パン小売業）
- ・新型車需要はあるものの、半導体不足により人気車種は1年近く納車待ちとなるなど、供給が追いつかない。（自動車小売業）
- ・売上の構成は、店舗2割、ネット販売5割、外商3割程度。（小売業）
- ・原材料高騰のため、商品10円～20円値上げ。（小売業）

##### 【運輸業】

- ・先行きが不透明なため、設備投資の判断が難しい。（一般貨物自動車運送業）
- ・第7波の中、キャンセルはほとんど発生せず、客数はコロナ禍前の約6～7割に回復。（一般乗合旅客自動車運送業）

##### 【サービス業】

- ・様々な食材等が値上がりしており、燃油も高騰。酒・飲料の値上げに合わせて10月にメニューの再値上げを予定。（飲食店）
- ・夏休み期間は、グループでの旅行客が回復傾向。（旅行業者代理業）
- ・コロナ感染・濃厚接触などでスタッフ不足となり、施設の定員を減らさざるを得なかった。（老人・福祉介護事業）
- ・新型車需要はあるものの、半導体不足により人気車種は1年近く納車待ちとなるなど供給が追い付いていない。（自動車販売業）
- ・移動制限がない夏休みを利用してグループ旅行が着実に回復。（観光業）
- ・第7波の影響があったが、旅行支援制度の効果で道内客が下支えしている状況。今後は全国旅行支援による道外客の増加に期待。（宿泊業）








##### 【関係機関・団体】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響から、引き続き厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられている。最終需要面をみると、公共投資は、幾分減少している。設備投資は、持ち直しの動きが緩やかになっている。住宅投資は、低水準で推移している。個人消費は、緩やかな持ち直しの動きがみられている。観光は、厳しい状況にあるが、全体としては持ち直しつつある。生産は、持ち直しつつある。雇用環境は、弱い中であっても、持ち直しの動きがみられている。（日銀函館支店/令和4年7月1日公表）
- ・道の駅の売上は良い。野菜類（特にじゃがいも）は好調。お土産品は若干減少が続いている。年間の売上は、約1.4億円、内1億が野菜類、4千万が土産品、野菜類の4/1がじゃがいも。今期の売り上げは前期より









増加予想。(観光協会)

・道南地方の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、引き続き厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられている。最終需要面をみると、公共投資は、幾分減少している。設備投資は、緩やかに持ち直している。住宅投資は、低水準で推移している。個人消費は、緩やかな持ち直しの動きがみられている。観光は、厳しい状況にあるが、全体としては持ち直しつつある。生産は、持ち直しつつある。雇用環境は、弱い中であっても、持ち直しの動きがみられている。(日銀函館支店/令和4年9月9日公表)

















## 2 道内金融機関から見た地域景況感 (7~9) 月期)

① 非常に好調 	② 好調 	③ やや好調 	④ 普通 	⑤ やや低調 	⑥ 低調 	⑦ 非常に低調 
---	--	--	--	--	--	---

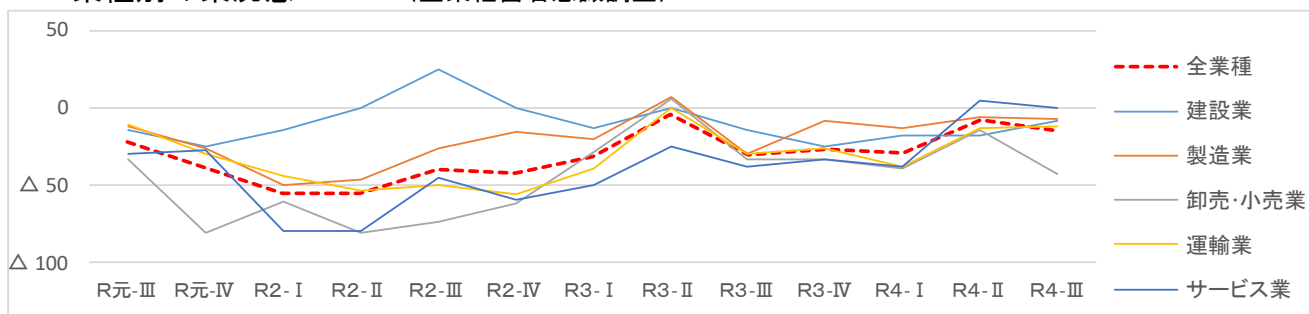
### 【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
渡島信用金庫				生産動向については、一部水産加工業等の製造業において収益が増加している動きもあるが、その他の業種では依然厳しい状態が続き、回復基調には至っていない。消費動向については、コロナ禍における人流規制が緩和されている状況の中にあっても、外出等の行動を自粛する習慣が根付きつつあり、早期に改善される基調にはないことから「やや低調」と判断した。		年末年始へ向けた消費者動向の底上げに期待感はあるものの、円安の影響や国際情勢の悪化による原材料、原油の高騰など、生産・消費動向共に早期に回復基調とはならず、次期景況見通しについては前回同様「変わらない」と判断した。
道南うみ街信用金庫				今期の業況 DI は、概況で△23.8 と前期比 11.3 ポイントの良化となった。小売業、サービス業、製造業は前期比でマイナスの圧縮、建設業はマイナスからプラス転換ができた中で、卸売業は△37.5 と大幅なマイナスを示した。売上額の動きで△11.0 と前期比 7.3 ポイントの悪化、収益の動きでも△18.4 と前期比 2.8 ポイントの悪化となった。新型コロナウイルス「第7波」やロシア・ウクライナ情勢に起因する原材料価格の高騰が要因と思われ、総体的に前期の「やや低調」と変わらないと判断した。		次期の景況見通しについて、概況では、△31.3 と今期より 7.5 ポイントの悪化予想となった。売上額の動きでは総合で今期と同数値を示したが、卸売業のみが 25.0 ポイントの増加予想であり、他の業種ではマイナス傾向となっている。収益の動きでは、今期の△18.4 より 2.8 ポイントの減少予想となった。物価高の影響から下降傾向が予想されるが、各種補助事業も実施されることから、今期の「やや低調」と変わらないと判断した。

### 【景況感の推移】

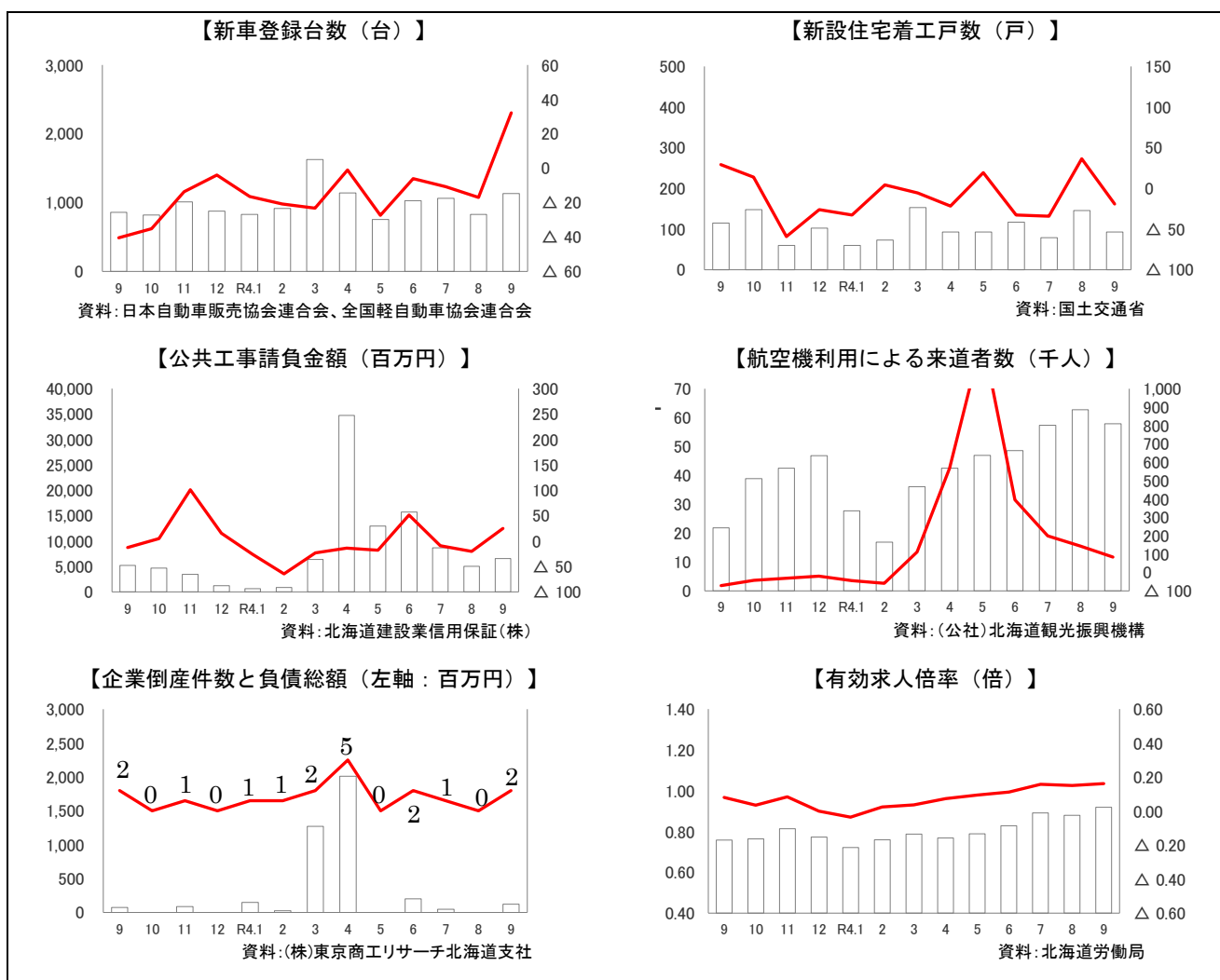
	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III
渡島信用金庫								
道南うみ街信用金庫								

### 3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	R元-III	R元-IV	R2- I	R2- II	R2- III	R2- IV	R3- I	R3- II	R3- III	R3- IV	R4- I	R4- II	R4- III
全業種	△ 22	△ 39	△ 55	△ 56	△ 40	△ 42	△ 32	△ 5	△ 31	△ 27	△ 29	△ 8	△ 15
建設業	△ 15	△ 25	△ 15	0	25	0	△ 13	0	△ 15	△ 25	△ 18	△ 18	△ 9
製造業	△ 12	△ 27	△ 50	△ 47	△ 27	△ 16	△ 20	7	△ 30	△ 9	△ 13	△ 6	△ 8
卸売・小売業	△ 33	△ 81	△ 61	△ 81	△ 74	△ 62	△ 29	6	△ 33	△ 33	△ 40	△ 15	△ 43
運輸業	△ 11	△ 30	△ 44	△ 54	△ 50	△ 56	△ 40	0	△ 30	△ 27	△ 38	△ 13	△ 12
サービス業	△ 30	△ 28	△ 80	△ 80	△ 45	△ 60	△ 50	△ 25	△ 38	△ 33	△ 38	5	0

### 4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)